

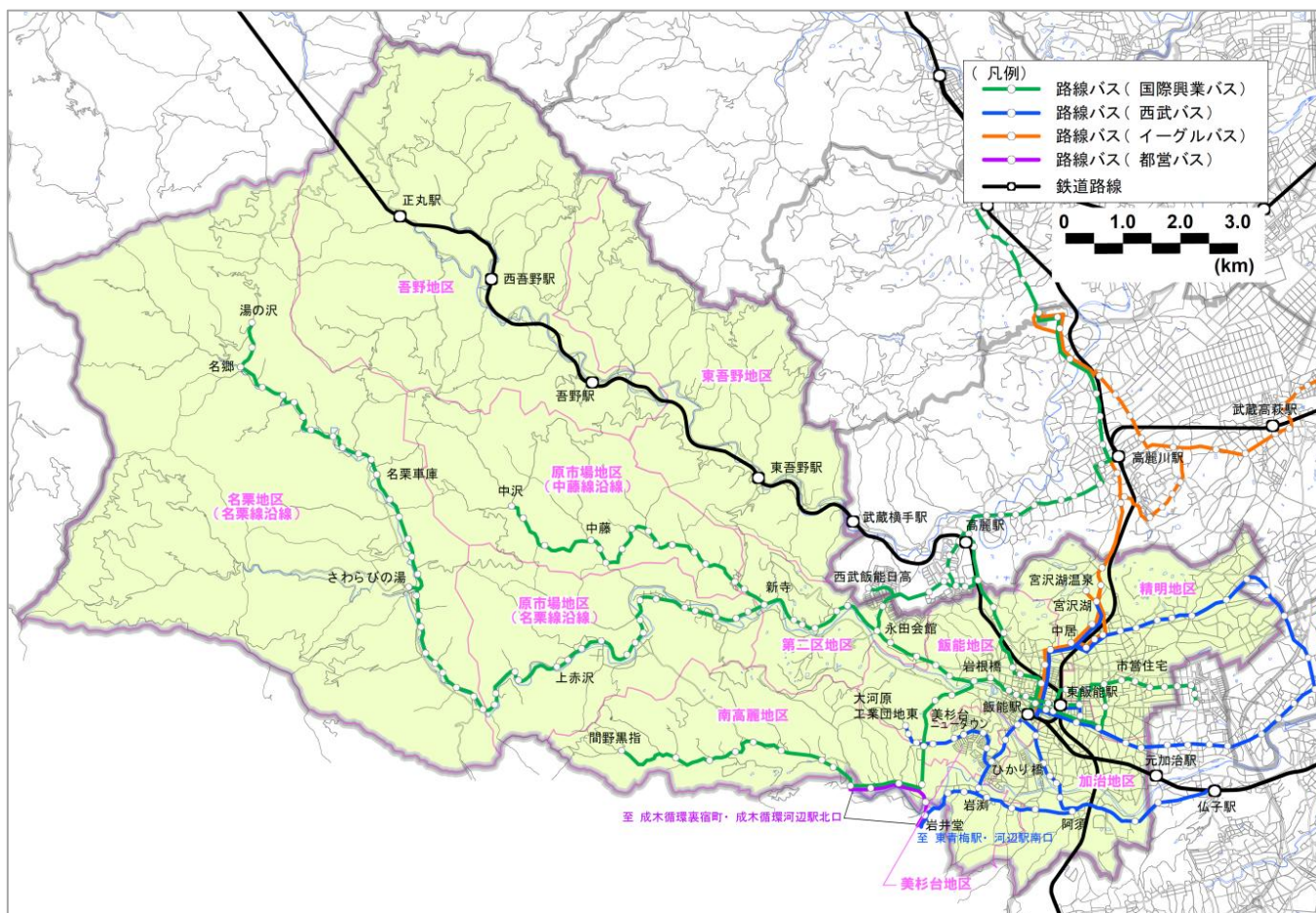
暮らしを支える地域公共交通の実現をめざして
～市・交通事業者・地域が協働して「まもる・育てる・つくる」～

飯能市の 地域公共交通について

平成29年3月
生活安全課交通政策室

1 飯能市地域公共交通等の構成

本市の公共交通ネットワークの状況は、**飯能駅を中心に路線バス（国際興業バス、西武バス、イーグルバス）が運行され、**路線バスのない地区の交通手段としては鉄道（西武鉄道、JR）があるなど、公共交通インフラは比較的充実している。



【①鉄道】

- ・ 市のほぼ東端に位置する市街地の中心部には、飯能駅（西武池袋線）と東飯能駅（西武池袋線・JR八高線）が立地
 - ▶ 東京都心と本市を結ぶ西武池袋線
 - ▶ 八王子—高崎間を結ぶJR八高線（高麗川駅から川越線に接続）
- ・ 平成25年3月に、私鉄5社（西武鉄道、東武鉄道、東京メトロ、東京急行電鉄、横浜高速鉄道）による相互直通運転が開始
 - ▶ 飯能駅から渋谷・横浜方面が乗り換えなしでつながるなど、利便性の向上が図られている。

・ 西武池袋線

3 駅：飯能駅、東飯能駅（JR八高線）、東吾野駅

・ 西武秩父線

3 駅：吾野駅、西吾野駅、正丸駅

・ J R 八高線 ・ J R 川越線

平成 8 年に八王子・高麗川間の 31.1km の電化工事が完了し、電化

- ▶ J R 八高線八王子・高麗川間
（八高線複線化促進協議会）・・・複線化を要望
- ▶ J R 八高線高麗川・高崎間
（八高線電化促進期成同盟会）・・・電化を要望
- ▶ J R 川越線
（J R 川越線整備促進協議会）・・・主に複線化を要望

【②路線バス】

バス路線は飯能駅を起点として放射状に形成され、**国際興業バス、西武バス、イーグルバスの3社の31系統が運行**

- ▶ 少子高齢化による人口減少や自家用車の保有台数の増加
- ▶ 様々な影響により、全国的にも利用者が減少
- ▶ 路線バスの収支は非常に苦しい状況
- ▶ バス事業者の運行している約7割が赤字路線
- ▶ 市内のバス事業者についても一部の路線を除き、**多くの路線が赤字運行**

運行会社	市内 系統数	主な路線	運行 本数 (平日)	運行 本数 (土日 祝日)
国際興業(株)	19系統	飯能駅 ~ 湯の沢	3	0
		~ さわらびの湯~湯の沢	2	3
		~ 名栗車庫	10	6
		~ さわらびの湯~名栗車庫	3	6
		~ 名郷	4	2
		~ さわらびの湯~名郷	3	10
		~ 中沢	4	3
		~ 中藤(青石橋)	3	1
		~ 上赤沢	4	3
		~ 西武飯能日高	42	37
		~ 間野黒指	5	5
		~ こま武蔵台ニュータウン循環	23	21
		~ 工場前・双柳小~双柳循環	10	8
		工場前 ~ 双柳小~飯能駅	13	10
		飯能駅 ~ こまニュータウン~西武飯能日高	4	2
		名栗車庫 ~ 名郷(下りのみ)	2	2
		名栗車庫 ~ 湯の沢(下りのみ)	2	1
飯能駅 ~ 高麗川駅~埼玉医大	18	12		
~ 高麗川駅~埼玉医大国際医療センター	4	2		
			159	134

※国庫補助路線

※市補助路線

※県・市補助路線

運行会社	市内 系統数	主な路線	運行 本数 (平日)	運行 本数 (土日 祝日)
西武バス(株)	9系統	飯能駅南口 ~ 河辺駅南口	1	0
		~ 東青梅駅	9	7
		~ 岩井堂	2	2
		~ 美杉台ニュータウン	59	60
		~ 美杉台ニュータウン(深夜)	2	0
		~ 大河原工業団地東	40	16
		飯能駅北口 ~ 狭山市駅西口(下川崎経由)	0	1
		※土日祝日のみ		
		~ 狭山市駅西口(笹井経由)	3	2
~ 宮沢湖 ※土日祝日のみ	0	1		
			116	89

運行会社	市内 系統数	主な路線	運行 本数 (平日)	運行 本数 (土日 祝日)
イーグルバス(株)	4系統	飯能駅北口 ~ 高萩駅	1	2
		~ 高萩駅(宮沢湖温泉経由)	7	6
		~ ひだか団地	9	6
		~ ひだか団地(宮沢湖温泉経由)	1	2

【③その他の移動交通】

(1) 総合福祉センター送迎バス(指定管理業務)

- ▶ 総合福祉センターの利用者の交通手段
- ▶ 市内全域を11のコースに分け、中型のバス1台で月曜日から金曜日まで市内を循環
- ▶ 迎いのバスについては、各地区の停留所から乗車し、総合福祉センターでの降車に限る利用
- ▶ 送りのバスについては、総合福祉センターを出発し、自宅近くの停留所で降車
- ▶ 運転手1名、添乗員1名で運行

○送迎バスの運行(利用状況)

年度	24年度	25年度	26年度	27年度
運行回数	1,386回	1,375回	1,389回	1,360回
利用者数(延べ)	6,198人	5,704人	5,371人	4,712人

※社会福祉協議会各年実績報告の数値(HPで確認)

【④その他の移動手段（福祉の取り組み）】

（1）重度心身障害者福祉タクシー利用料金の助成

＜対象者＞：市内に住所を有し、身体障害者手帳1・2級又は療育手帳（（A））・Aの交付を受けている方。ただし、重度身障者自動車燃料費助成との併給はできない。

＜内 容＞：1か月に4枚の割合で交付。1枚当たりの助成額は初乗り運賃相当額。埼玉県タクシー協会又は埼玉県個人タクシー協会に加入している事業者等のタクシーに乗車した場合に使用することができる。

(2) 飯能市社会福祉協議会における外出支援 (移送サービス)事業

① 移送サービスカー(福祉車両)貸与事業の実施

- ▶ きらめき号 (トヨタ・レジアスエース、9人乗り)
車いす、ストレッチャーによる搭乗可
- ▶ こじか号 (ダイハツ・ハイゼット、4人乗り)
車いすによる搭乗可

	平成25年度	平成26年度	平成27年度
利用登録者数	54人	50人	41人
利用回数(延べ)	166回	163回	145回
(内訳)			
きらめき号	126回	110回	78回
こじか号	46回	56回	67回

(2) 飯能市社会福祉協議会における外出支援 (移送サービス)事業(つづき)

② 運転サービス事業の実施

(協力: 飯能運転ボランティアグループ「相輪」)

	平成25年度	平成26年度	平成27年度
利用登録者数	48人	37人	25人
利用回数(延べ)	148回	126回	95回

③ 飯能運転ボランティアグループ「相輪」の支援

- ・ 安全運転講習会の開催 (年1回: 飯能自動車学校)
- ・ 運転ボランティアの派遣調整

(3) 地域福祉推進組織による移送サービス

組 織	移送サービス	運転ボランティア謝礼	参加者負担	平成26年度実績
原市場地区社会福祉協議会	買い物ツアー 月1回 (車両:個人)	無 (ボランティア 3人)	100円 ※ガソリン代として	買い物ツアー 11 お散歩ツアー 4 朝市 5
なぐり広場	サロン送迎 月1回 (車両:社協)	無 (ボランティア 15人)	負担なし	送迎ほか 46 (延べ802人)
たすけあいあがの	買い物ツアー サロン送迎 年170回程度 (車両:社協貸与)	無 (ボランティア 23人)	100円 ※買い物ツアーのみ	買い物ツアー 110 サロン送迎 44 その他 19 (延べ802人)

(4) 福祉センター直営による移送サービス

組 織	目 的	運転ボランティア謝礼	謝礼の額	平成26年度実績
原市場福祉センター	施設への送迎のため(車両:市借上げ)	有 (ボランティア4人)	1時間500円	送迎661 (延べ2,130人)
南高麗福祉センター	施設への送迎のため(車両:市借上げ)	有 (ボランティア3人)	1時間500円	送迎322 (延べ1,339人)

(5) 民間団体による福祉有償運送による移送

<ぬくもり福祉会たんぽぽ>

対象：身体、知的、精神障害者、要介護者、要支援者

助け合い活動(移送サービス)結果	移送(民間団体生活サポート事業除く)	民間団体生活サポート事業	移送事業合計	依頼を受けられなかった件数
平成25年度	1,518件	5,323件	6,841件	—
平成26年度	1,448件	5,256件	6,704件	—
平成27年度	1,077件	4,455件	5,532件	14件

2 地域公共交通を取り巻く現状・課題

(1) これまでの経緯と現状(路線バス)

- ▶ 少子高齢化や自家用車の保有台数の増加などの影響により、利用者が減少
- ▶ 平成23年6月に、国際興業(株)から平成25年度末をもって飯能営業所の廃止を具体的に検討するとの申し出を受ける。
- ▶ 自治会連合会から路線存続の要望書が提出されたこと、赤字路線への補助金の交付の決定、また、他の路線バス運行事業者、有識者、地域等との協議・調整を得る。
- ▶ 平成26年度から平成28年度までの3か年の運行が継続される。

(2)「飯能市地域公共交通基本計画」の策定

市では、国際興業(株)飯能営業所撤退問題の現状等を踏まえ、「暮らしを支える地域公共交通の実現をめざして～市・交通事業者・地域が協働して「まもる・育てる・つくる」公共交通～」を基本方針とした「**飯能市地域公共交通基本計画（平成26年～35年度）**」を平成26年3月に策定。



**市・交通事業者・地域(市民)が一体
となって取り組みを推進**

(3) 飯能市地域公共交通基本計画策定後の取り組み

基本目標 1 : 地域の幹線交通としての路線バスを
「まもる」

● 施策 1 - ① 市補助金の継続

(1) 路線バスへの補助金(市、県)

- ・ 山間地域のバス路線を維持確保することを目的として、赤字路線となっている湯の沢線、間野黒指線の最終便、中沢線の中藤（青石橋）～中沢間、名栗車庫線について、**バス事業者（国際興業株）に対し補助金（年間約6,300万円）を交付**

●施策1ー② 観光やイベント等によるバス利用のさらなる促進

(1) 飯能ワンコインゾーンの1年間の実証実験

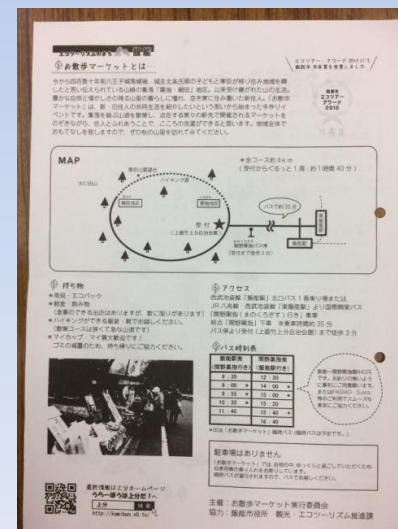
【主体：国際興業株】

- ・ 飯能駅を起点に市街地の一部区間を大人100円、小学生10円とする「飯能ワンコインゾーン」を、平成26年5月16日（金）から1年間実証実験を実施
- ・ 平成26年5月16日（金）から、さらに1年間延長、現在も継続中（平成26年度実施：継続）

●施策1-② 観光やイベント等によるバス利用のさらなる促進（つづき）

(2) エコツアーリズムによる利用促進【主体：ツアー実施者】

- ・ **バス停を集合場所にしたツアー等の実施**
(平成26年度実施：継続)



●施策1ー② 観光やイベント等によるバス利用のさらなる促進（つづき）

（3）名栗地区体験イベントの開催

【主体：わくわく名栗クラブ】

- ・平成27年9月23日に都内の方（親子）を対象に「ピストン釣」体験イベントを開催。300名を超える応募の中から150名が参加
- ・貸切バス3台（国際興業バス）により、飯能駅から会場までの輸送及び観光施設の見学を実施
（平成27年度実施：継続）



基本目標 2：路線バスを身近にして公共交通を「育てる」

●施策 2-① バス路線をわかりやすく見せるための取組の推進

(1) (仮称)飯能市バスルートマップの作成

【主体：市、協議会】

- ・分科会、協議会での検討を経て、平成26年度末に作成（平成26年度実施）

(2) 飯能市バスマップの配付

- ・10,000部作成したバスルートマップを転入者のほか、各公共施設等で配布（平成27年度実施）



●施策2-② モビリティマネジメントの推進

(1) 公共交通ニュースの発行【主体：市】

- ・ 月1回「公共交通ニュース」を発行（市ホームページへの掲載、各地区行政センターでの掲示及び配布）
（平成26年度実施：継続）

(2) バス乗り方教室の開催【主体：地域】

- ・ 原市場小学校で3、4年生を対象としたバス乗り方教室を地域の団体が主催者として実施
（平成26年度実施：継続）



●施策2-③ バス利用のための利便性の向上

(1) 国際興業バス「名郷バス停」の位置及び、折返し場を移動（平成27年度実施）

(2) バスマチスポットの登録

- ・埼玉県で進める「出歩きやすい街づくり事業」の取組の1つ
- ・バス停の近くで、バスを気軽に待てるお店や公共施設を登録（平成28年度実施）

●施策2-④ バス路線の見直し等の検討

(1) 国際興業バスにおいて、「飯14市宮住宅線」を**双柳循環路線に改編**（平成27年度実施）

基本目標 3：生活を支える公共交通手段を 「つくる」

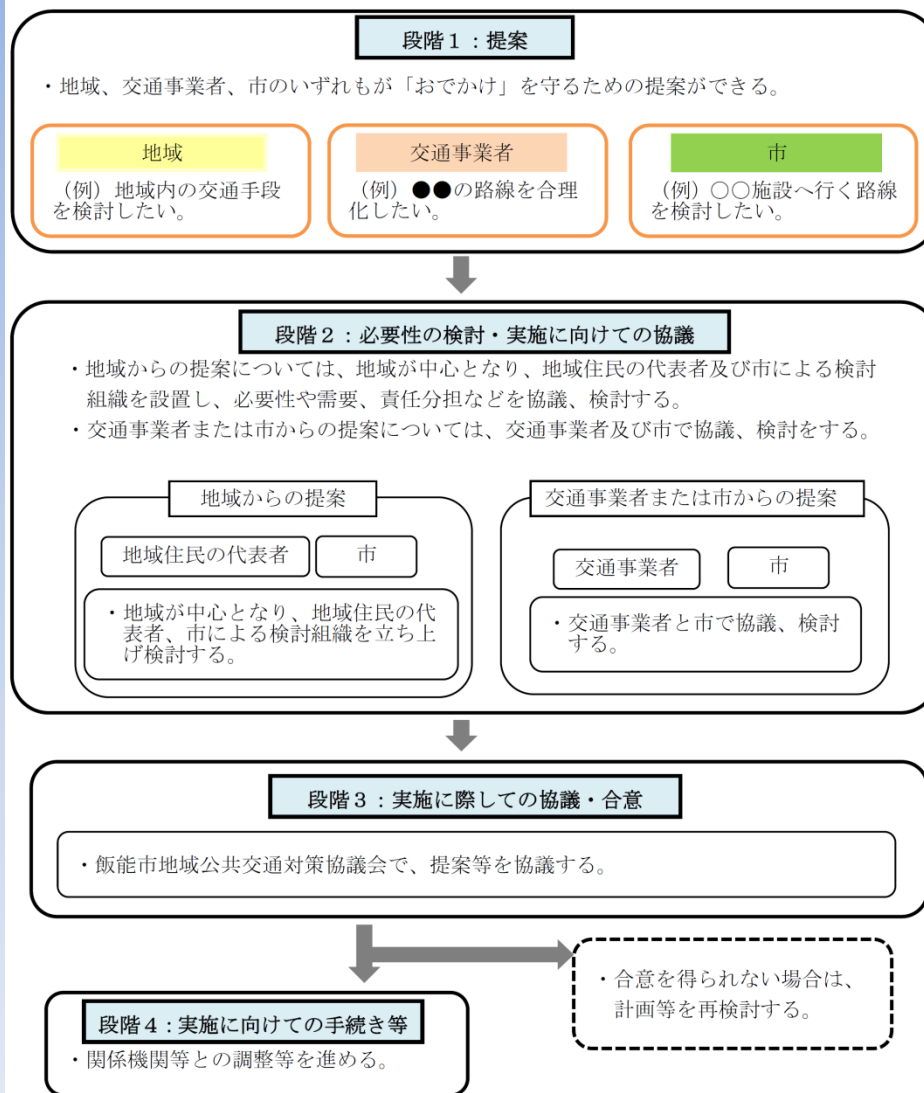
●施策 3-① 「おでかけ」を守るための検討

(1) 地域・交通事業者・市が一体となって「おでかけ」を守る

- ・ 地域・交通事業者・市のいずれもが提案・参画できる仕組みづくり
- ・ 提案者が主体となった検討組織づくり
- ・ 地域にある公共交通を最大限に活用し、これらと有機的に結節させる仕組みをつくることで、既存の公共交通の持続性を高めつつ、おでかけしやすくなる環境づくり

●施策3-① 「おでかけ」を守るための検討（つづき）

『「おでかけ」を守るための検討』イメージ図



●施策3-① 「おでかけ」を守るための検討（つづき）

(1) 吾野地区の「たすけあいあがの 移動交通部会」への出席【主体：たすけあいあがの移動交通部会】

・吾野地区の「たすけあいあがの 移動交通部会」との意見交換など開催。

（平成26年度実施：継続）

(2) 出前講座【主体：団体】

・2団体から申込み。

（平成26年度実施）

●施策3-① 「おでかけ」を守るための検討（つづき）

(1) 市民懇談会の実施（市内13地区行政センター）

- ・市、交通事業者と地域が一緒になって、これからの地域公共交通のあり方、地域づくりを考えていくスタートとしての位置付け
- ・市全体及び地区別の地域公共交通の現状と課題の説明及び説明に関する意見交換を実施
- ・地域住民の方に地域公共交通の現状や課題を理解していただく。（平成28年度実施：継続）

(2) 地域公共交通懇談会の実施（中藤・中沢線沿線地区）

- ・平成28年6月に、国際興業バスの中藤・中沢線は不採算路線の輸送力調整として大幅減便
- ・市全体及び中藤・中沢線沿線地区の地域公共交通の現状と課題の説明及び説明に関する意見交換を実施
- ・今後の地域公共交通の課題解決の第一歩
（平成28年度実施：継続）

●施策3-② スクールバスの活用の検討

(1) スクールバスの運行

- ・ 山間部の公立小学校ではスクールバスを運行し、一部の小学校では路線化の届出をしたスクールバスの運行を実施

(2) スクールバスの混乗利用

- ・ スクールバスを運行している地域では、地域の移動手段としても活用できるように、一般の方の利用についても検討する。

(4) 課題

① 路線バス

- ・ 少子高齢化に伴う人口減少は、推測値を上回る速さで進行
- ▶ 路線バスの利用者の減少に歯止めがかからず、地域公共交通の維持・確保は依然として厳しい状況。
- ・ 市の重点施策として進めている観光・エコツーリズムの推進により、飯能市を訪れる観光客数は増加しているが・・・
- ▶ 通勤・通学等の日常生活での利用者数の減少を埋めるには至っていない。
- ・ 国際興業バスの一部路線については、不採算路線の輸送力調整として大幅な減便実施
- ▶ このことにより、路線沿線住民のおでかけが確保できないといった問題も出てきている。
- ・ それぞれの地域内を運行している公共交通を維持・確保していくことのほか、山間部や路線バスを運行していない地域の住民が「安心して地域での生活を続けることができる」よう、「おでかけ」を守る
- ▶ 既存の公共交通と連携して地域での生活を支える新たな交通手段をつくる。

②人口減少及び少子高齢化の進行

各地区の人口状況

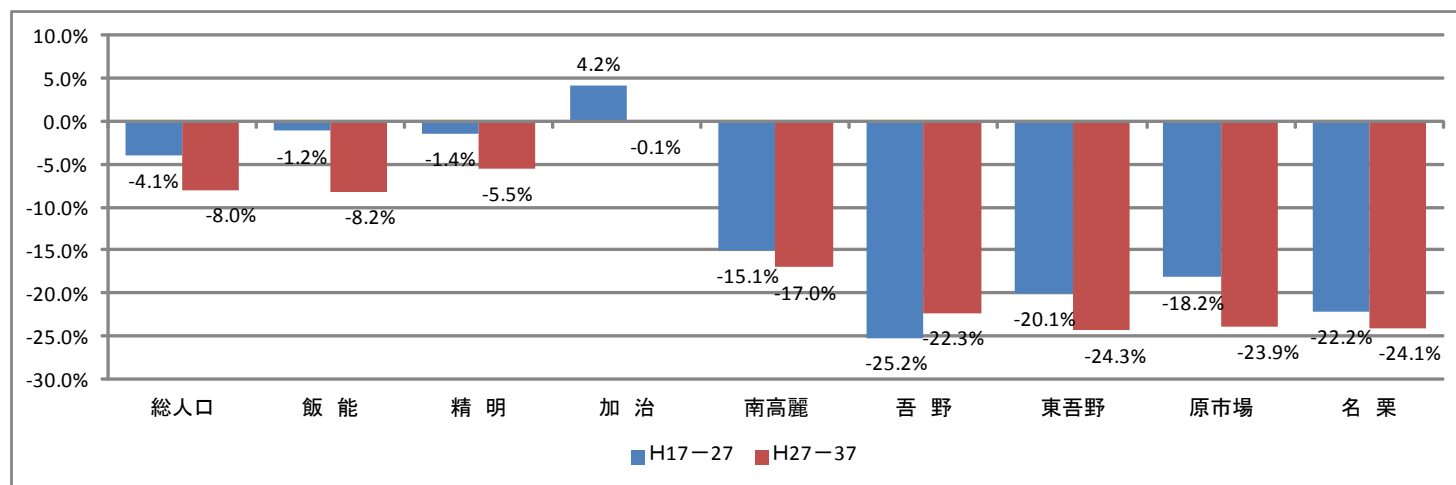
各年1月1日現在(単位:人)

年次	総数	飯能	精明	加治	南高麗	吾野	東吾野	原市場	名栗
平成17年	84,242	21,900	16,763	25,248	2,689	2,945	2,540	9,545	2,612
18	83,743	21,799	16,862	25,070	2,756	2,877	2,476	9,337	2,566
19	83,225	21,689	16,823	24,991	2,870	2,763	2,441	9,161	2,487
20	83,061	21,943	16,764	24,846	3,007	2,696	2,363	9,020	2,422
21	82,620	21,796	16,602	25,045	3,036	2,594	2,321	8,860	2,366
22	82,390	21,789	16,598	25,099	3,058	2,537	2,272	8,740	2,297
23	82,107	21,865	16,634	25,034	3,089	2,469	2,222	8,533	2,261
24	81,614	21,812	16,513	25,721	2,392	2,406	2,176	8,385	2,209
25	81,874	21,870	16,712	26,033	2,362	2,363	2,147	8,249	2,138
26	81,266	21,642	16,631	26,206	2,316	2,302	2,069	8,008	2,092
27	80,829	21,646	16,530	26,297	2,283	2,202	2,030	7,809	2,032
37	74,385	19,864	15,622	26,275	1,895	1,711	1,536	5,939	1,543

※平成25年からは、住民基本台帳人口に外国人住民を含む。

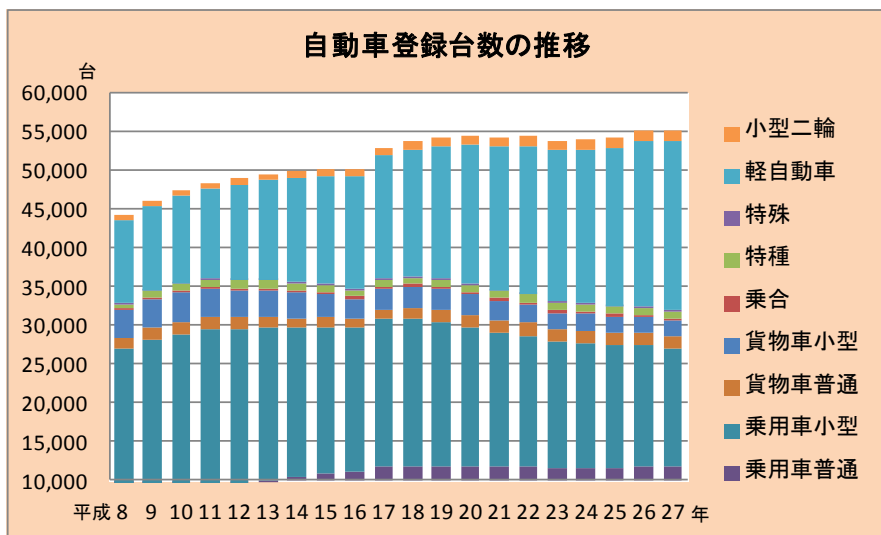
資料:市民課(住民基本台帳人口)

人口増減率	総人口	飯能	精明	加治	南高麗	吾野	東吾野	原市場	名栗
H17-27	-4.1%	-1.2%	-1.4%	4.2%	-15.1%	-25.2%	-20.1%	-18.2%	-22.2%
H27-37	-8.0%	-8.2%	-5.5%	-0.1%	-17.0%	-22.3%	-24.3%	-23.9%	-24.1%



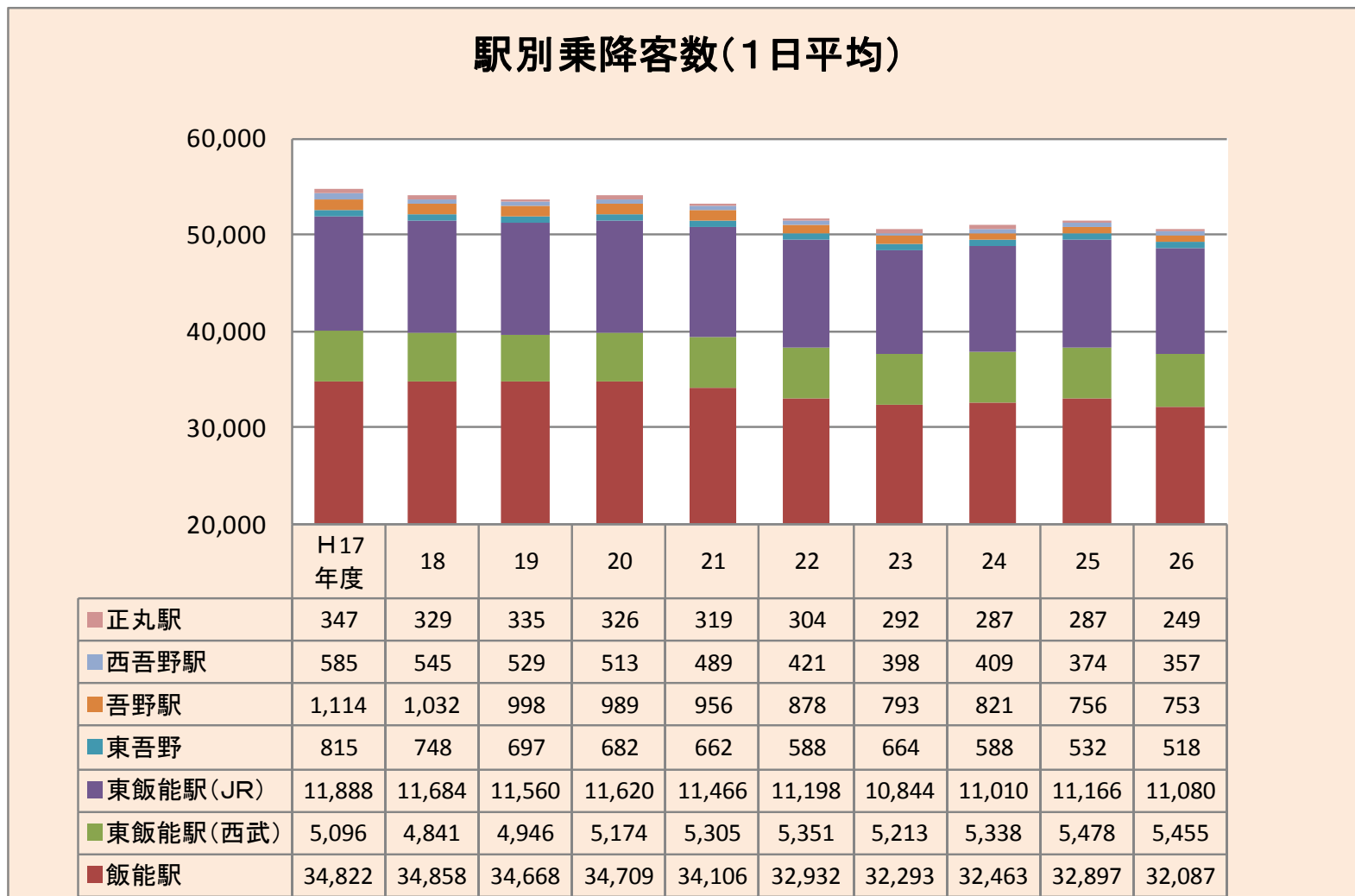
③ 自家用車での移動が主体に

- ▶ 自動車登録台数の増加
- ▶ 飯能駅及び東飯能駅周辺に安価で便利な駐車場の増加



④ 鉄道の現状・課題

▶ 乗降客数の減少



⑤ その他の移動手段の現状・課題

【総合福祉センター送迎バス】

- ▶ 利用者数が減少傾向
- ▶ センター利用者のための送迎だけではなく、利用条件の緩和を求める要望がある。
- ▶ 利用者の住んでいる地域に偏りがある。
- ▶ 送迎バスの利用者については、詳細なデータがあるため、地域ニーズについてはある程度把握できる。

⑤【その他の移動手段の現状・課題】(つづき)

【その他の福祉の移送サービス】

- ▶ 担い手の不足、担い手の高齢化
- ▶ 実施している事業所が少ない
- ▶ 新規参入しても業として成り立たない
- ▶ 利用者の制限により、利用したいが利用できない人がいる
- ▶ ドライバー個人の車両を使用し、何かあった場合は個人の保険を使用するなど、負担と責任が大き過ぎる
- ▶ 需要はあるのに供給が追いつかない
- ▶ 無償、受益者負担の考え方が統一されていない

(5) 今後の展望と取り組み

① 社会資源の活用

- ▶ 市内には、職員、従業員を事務所・工場等に、生徒、学生を学校、大学に運ぶバスやワゴンが多数運行（これらの多くは駅と目的地を結ぶもの）
- ▶ 山間地域の公立小学校については、各地域と小学校を結び小学生を送迎する**スクールバスも運行**
- ▶ バスやワゴン等に一般市民を乗車させるためには、特定旅客として特定されること、または運送法の改正により誰でも乗車できるようになることなどの手続が必要
- ▶ さらに、会社、学校、特定旅客自動車運送業者の理解と協力も必要
- ▶ 活用するまでには、さまざまな壁があり簡単には進められないが、不可能ではないため、必要性に応じて研究・検討していく

②市の施策を推進するための公共交通の新たな需要

【観光入込客数の増加】

- ▶ 「やまガール」「中高年の登山者」など、全国的にも登山人口が急伸
- ▶ 市で重点的に進めている観光施策の成果もあり、近年、**飯能市内への観光を目的とした観光客が増加**
- ▶ 春から初夏にかけて、また秋の紅葉のシーズンとなると、路線バス、鉄道を利用して多くの登山客やハイカーが山に向かう。
- ▶ 路線バスについては、**観光シーズンになると臨時便が運行**されることもある。
- ▶ 多くの観光客を運ぶ手段としては、大型の路線バス、又は鉄道でなければ対応できない。

年	観光地点	イベント	合計
平成23年	1,744,785人	185,702人	1,930,487人
平成24年	1,871,184人	227,819人	2,099,003人
平成25年	1,878,074人	364,319人	2,242,393人
平成26年	2,129,439人	253,541人	2,382,980人

※参考資料埼玉県県内市町村観光入込客数調査

※観光客の利用交通手段については、特に調査を行っていない

②市の施策を推進するための公共交通の新たな需要 (つづき)

【メッツァオープンに向けて】

- ▶ 2018年秋にオープン予定である「北欧のライフスタイルとムーミンの世界を体験できる、小さな発見に満ちた北欧時間の流れる森と湖 メッツァ」に来場する場合は、自家用車、鉄道、路線バス等の利用が考えられる。
- ▶ 市としては、**駅のロータリーの混雑を想定した駅周辺道路等の利活用**が課題
- ▶ 鉄道の利用者をどのようにして路線バス等につなげていくか、わかりやすい掲示や、バス待ちスペースの確保など、ハード面の整備も必要

②市の施策を推進するための公共交通の新たな需要 (つづき)

【飯能大河原工業団地に立地した企業の従業員の交通手段の確保】

- ▶ 現在、大河原工業団地に多くの企業が立地し操業
- ▶ 主に従業員の交通手段となっているのが、飯能駅からの西武バスの「大河原工業団地東」行きの路線バス
- ▶ 従業員の中には、西武線でなく、八高線を利用している方も多いことから、東飯能駅から大河原工業団地に直行する路線バスの運行が求められている。